

大学近隣の住宅地における空き家活用による“みんなのリビング”空間整備プロジェクト

事業代表者 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科・安森亮雄

構成員 宇都宮空き家会議、宇都宮市生活安心課、東峰西自治会、株式会社ピースノート

1. 事業の目的・意義

大学キャンパスの周辺では、住宅、学生アパート、商店等がみられ、大学町や学生街と呼ばれるなど特有な市街地が形成されている。宇都宮大学では2つのキャンパスが比較的隣接しており、大学との関係による環境形成が期待されるが、近年では、空き家や空き地などの空洞化もみられ、高齢化する住民の傍らで多くの学生が住む住宅地の将来像は、検討すべき都市課題である。本事業では、大学近隣の住宅地における空き家を活用した“みんなのリビング”としての空間整備のプロジェクトを実施した。

2. 事業の内容

(1) 事業の概要

宇都宮市東峰西自治会が所有する「とみくら商店」の整備に向けて、地域住民と学生の交流のきっかけとなるワークショップの開催、縁側空間等の改修設計、学生が参加するセルフビルドで施工を行った。

(2) 日程

2018年5月20日〈ワークショップ〉

学生と地域住民の交流イベントと空間整備についての企画検討。

2018年11月～2019年1月〈改修設計〉

宇都宮大学、東峰西自治会、宇都宮市生活安心課、株式会社ピースノート合同の意見交換と改修設計。

2019年2月16日～3月14日〈セルフビルド〉

内壁の撤去、カウンターテーブルの設置、たばこ販売台の改修、ファサードの改修のセルフビルド。

3. 事業の進捗状況

(1) ワークショップ

前年度の内部改修で新しくなったとみくら商店のお披露目を兼ねた地域住民と学生の交流イベントを行った(図1)。交流イベントでは模型の展示や今後の使い方や空間整備の意見を聞くためのご意見ボードの設置を設置した。またヒアリングの時間を設け、普段とみくらを利用しない人から



図1 交流イベント



図2 ヒアリング

も意見を伺うことができた(図2)。

(2) 改修設計

11月から1月にかけて改修設計作業を行い、宇都宮大学、宇都宮市東峰西自治会、宇都宮市生活安心課、株式会社ピースノート合同での打合せを合計4回行った(図3)。ワークショップで伺った地域住民からの意見を反映し、木材を使った柱のない開放的なファサードを提案した(図4)。よりどころとなる縁側空間を目指して庇とベンチを設計し、たばこの販売台は域との新しい交流の場を目指し、展示スペース、掲示板、販売カウンターを整備し、地設計した。また打合せを重ねる中で、内部空間の拡大が求められ、内壁を撤去し、折り畳みカウンターを設置することで多目的に使える空間とした設計した。



図3 打合せ風景



図4 提案ファサード

(3) セルフビルド

2月16日から3月14日にかけて工務店のピースノートの指導のもと、宇都宮大学、宇都宮市東峰西自治会、宇都宮市生活安心課でセルフビルドを行った。作業はまず内部改修を行った。カウンターや棚には、破棄される予定だった桐ダンスを活用した(図5)。次にたばこ台の改修を行い、既存の装飾を参考に木材で作成した。最後にファサードの改修を行い、材料を60mm角材に統一したことで、破材の量を抑え、作業も単純化することができた(図6)。



図5 桐ダンスを利用した家具

4. 事業の成果

大学近隣の住宅地における空き家の活用を目指して、「とみくら商店」の改修設計とセルフビルドを行った。そこでは、地域住民と学生の交流の機会が生まれるとともに、ワークショップやセルフビルドを通して、事業の周知を行うことができた。

5. 今後の展望

新しく生まれ変わった「とみくらみんなのリビング」の活用のワークショップを継続して行い、地域住民と学生の交流の機会を作り出す。本事業により、空き家の活用と高齢化する住民の傍らで多くの学生が住む住宅地の将来像を検討する一助になることが期待される。



図6 ファサード改修



図7 改修後写真